

# 在宅看護論Ⅲ 授業③

## ～在宅看護での リスクマネジメント～



福岡水巻看護助産学校  
1年生

# 1. 在宅でのリスクマネジメント

(テキストP.137～)

- 医療上のリスクだけでなく、( )のリスクも含む。
- 看護師が常に側にいるわけでないので、リスクが実在化しても、すぐ( )できない。
- 看護師だけがリスクに対処するわけではない。他の( )や( )につなぐことも多い。
- 多職種や家族など( )全体で( )し、リスクマネジメントに取り組む。

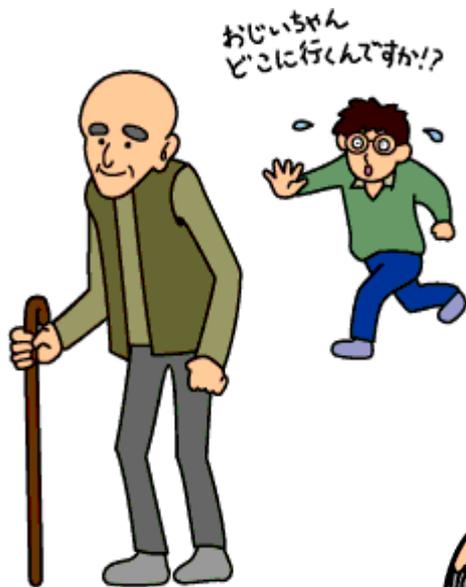
## 2. 在宅療養でのリスク

(テキストP.138)

- 1) 事故・・・転倒・転落、外傷、( )、凍傷
- 2) ( )
- 3) ( )
- 4) ( )トラブル(抜去、閉塞、破損)
- 5) ( )の故障
- 6) 脱水、( )
- 7) 認知症による( )
- 8) ( )被害
- 9) ( )
- 10) 停電、火災、( )



( )や夫婦のみの( )は  
要注意！



しかし、同じ年齢、疾患でも、  
寝たきり度や認知症の状況  
介護の状況、生活環境で  
リスクは異なります。



### 3. リスクマネジメントの視点 (テキストP.138)

#### ◎ マネジメントの内容

( ) と起こった時の ( )

#### ◎ リスクの背景

リスクの要因には療養や生活に対する療養者・家族の ( ) も影響が…  
どのような考えを持つかとらえる。  
一方でリスクについて ( ) する。

## 4. マネジメントの具体策

在宅看護論Ⅱの授業で、既に学んだ内容もあるので、ここでは以下について学びましょう。

- 1) 転倒・転落
- 2) 熱中症
- 3) 自然災害



# 1) 転倒・転落 (テキストP.139)

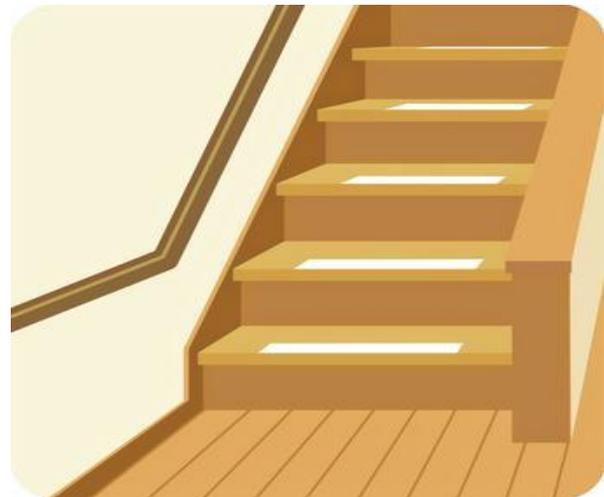
## (1) 危険はないか確認！

敷地に上がる階段、玄関

廊下、階段、浴室、トイレ、

部屋の出入り口( )や( )

寝室の( )



## (2) 転倒予防

### ◎住宅改修、福祉用具の活用

スロープ、段差解消、手すり  
滑り止めマット

( )、( )

歩行器、杖 (P.142)

### ◎安全教育

床に物を置かない

( )は履かない

階段のふちに( )を張る

廊下の( ) (P.140)

# Point～転倒・転落の要因 (テキストP.141)

★療養者の身体機能、精神機能  
(寝たきり度、認知症の状況)

★療養環境

★介護方法

介護に( )

( )、知識不足

( )～自己流の考え・方法

慣れによる( )

## 2) 熱中症 (テキストP.142～)

### (1) 熱中症とは？

視床下部の体温中枢の働きが低下

( )できず、( )となる。

重症では体温が( )を超え死に至る。

### (2) 高齢者が熱中症を起こしやすいのは？

体内の( )が少ない

( )の働き低下

重度認知症では( )

( )で水分飲用少ない

### (3) 疾患との関連

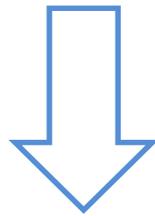
★( )、高血圧、( )、  
( )では、熱中症になりやすく、  
重症化しやすい。

★脊髄損傷による( )  
( )では発汗障害で  
( )できず、成人者  
でも熱中症になりやすい。



# Point～熱中症の症状

( )、( )、顔面紅潮



筋肉の痙攣、( )、倦怠感

嘔気、汗をかかない、( )

( )

まっすぐ歩けない、( )

受け答えがおかしい、( )

## (4) 熱中症への対応

訪問時にこんな事があったら・・・

(            )が異常に高い

(            )室内

(            )や(            )の使用なし

ぐったりした様子

ぼんやりして、反応がにぶい

座り込んでいる、時に倒れている

# 訪問看護師はどうする？

療養者の病状を確認する

～( )はあるか、( )はどうか

( )をする、( )をつける

( )を緩める

身体を( )～冷凍庫の保冷剤活用

( )補給～スポーツドリンク活用

重篤な場合は医師に連絡、( )を依頼

\* 回復しても、状況についてケアチームで共有

## (5) 熱中症予防

- 熱中症について療養者・家族に( )
- ( )や( )を常備
- ケアチームで予防に取り組む
  - ( )の活用
  - 予防策や対処について検討
  - 特に( )など他の訪問サービスとの連携を図る

# Point～ケアチーム連携の具体策

サービス担当者会議 や( )  
電話やインターネット(SNSやLINE)の活用



## 5) 自然災害 (テキストP.153)

(1) 日本は**災害大国** !?

⇒ 地震、台風、大雨、火山の噴火

1995 (H.7) 年 **阪神・淡路大震災** (死者6434人)

2011 (H.23) 年 **東日本大震災**

(死者・行方不明 1万8425人)

\* 医療・介護・福祉分野での**災害支援教育の転機**に！

福岡県でも・・・

2005 (H.17) 年 **西方沖地震**

玄界灘で発生、マグニチュード7の地震

死者数は少なかったが、地震に慣れてない

福岡とその周辺の住民は対応に苦慮！

避難や災害支援も問題に！

## (2) 訪問看護ステーションの備え

＜訪問看護ステーションコスモの場合＞

○3階建てビル、**浸水**を想定して3階に  
支援物資・設備

フローアは**クッションマット**

(そのまま横になれる)

○災害対応の拠点、**近隣住民**  
**の避難**受け入れも想定

○救急用の**医療物品**

**保存食料**を備蓄



- 水はペットボトルではなく、電気なしで重力で作動するウォーターサーバー（通常も利用）  
ペットボトルのように消費期限切れの心配なし。
- ケアマネやヘルパー事業所も同じビル内に併設  
すべてのカルテは電子化、3階保管
- 安否確認の優先度の明確化
- 緊急時の指揮命令系統の明確化  
（管理者に連絡がつかない時は・・・）
- 地域のハザードマップ、避難所、医療機関の  
情報把握
- 災害支援の研修会の実施・参加

### (3) 災害時、訪問看護は？

◎ ( )

優先度が高いのは？

( ) 使用者、( )

重症者

( )、高齢世帯

( ) 療養者

古い住宅や海岸や

河川近くの居住者



## ◎ケアの見直しと対応

- 災害状況の把握、避難や支援の（ ）  
災害の規模や被災状況、避難所開設状況  
ライフライン（ ）への影響
- 重症者や医療機械利用者は  
医療機関への入院や（ ）への入所  
（ ）への（ ）

- 介護の中断がある場合  
    避難確認、状況によっては搬送
- 避難した際は、( )への連絡
- ケアの( )を検討し、( )  
    )を決定
- ケア方法の( )や訪問( )  
    を検討
- 看護にあたる( )の把握、配置を考える

# ◎療養者・家族に対して

- ( )がないか確認
- ( )の体調異常はないか確認
- 本人と家族の( )軽減を図る
- 災害急性期を過ぎると、疲労の( )に  
注意！
- 復旧、復興時は( )を支援

# ◎日頃の備え

## ・緊急持ち出し物品の準備

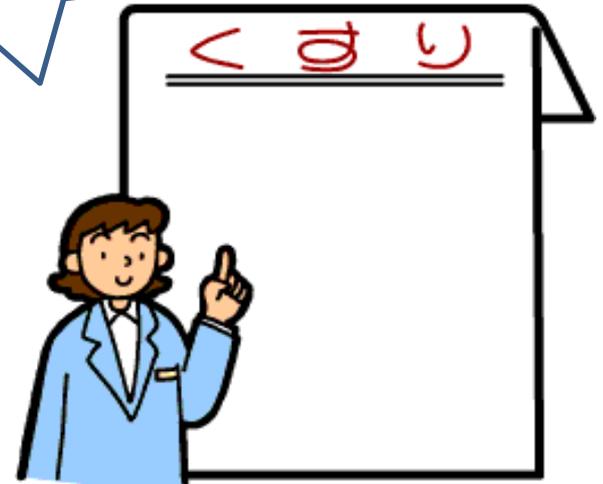
懐中電灯、手袋、( )、保存食料

( )、薬

( )や

家族の連絡先

忘れないで！



# 災害支援は「災害看護」で 学びを深めてね。

災害派遣医療チーム  
Disaster Medical Assistance Team

